



# 鹿骨東小学校



鹿骨東小学校公式ホームページ <http://edogawa.schoolweb.ne.jp/shishibonehigashi-e/>

## 水のありがたさと世界の危機

鹿骨東小学校 校長 中田 伸代

台風の進路を心配しながら、2学期がはじまりました。日本は豊かな森林資源と清らかな水に恵まれた国です。山々から流れる清流や多くの湖、海に囲まれた日本は幸せな国だと思います。また、水は生活の基盤であり、農業、工業、日常生活に欠かせない存在です。一方で、大雨や洪水など自然災害を起こす存在でもあります。日本は自然災害と戦いながら生きてきた国でもあります。

この夏、東京都教育委員会の海外研修でシンガポールという国を訪れる機会を得ました。地震や洪水などの自然災害もほとんどなく、高層ビルが立ち並ぶ近代都市です。国民一人当たりのGDPは7000米ドルと、日本の3300米ドルをはるかにしのぐ、アジア1の経済大国でもあります。しかし、東京23区ほどの国土には山もなく、森もなく、天然資源もない。そして水ですら55%を隣国のマレーシアから購入しているそうです。

そのマレーシアとの契約が切れる2061年までに、シンガポールは下水を処理して再利用する「ニューウォーター」という水と海水の淡水化、そして雨水を池にためて浄化した水を混ぜて、100%国産の水にする研究を進めていました。500ミリリットルの水のペットボトルが、500円もするシンガポールで、豊かな水がふんだんにある日本に生まれたことをありがたく感じました。また、「No Natural resources」(天然資源が何もない)シンガポールでは「資源=人」ということで国家予算の20% (約1754米ドル)も教育費にかけているそうです。ちなみに日本は4.7%。(216米ドル)。急激な経済成長の陰には、「すべては国の発展のために」という考え方で、経済、政治、教育に力を注ぐ強い意志があります。そして、英語、中国語、マレー語、タミル語の4つが公用語で、多民族であることもあり、英語が話せるのは当たり前。海外からもたくさんの人材を招き、国外にもどんどん出ていきます。日本も見習うべき点があると感じました。

さて、豊かな水資源のある日本と違い、世界にはシンガポールのように水が手に入りにくい国が多数あります。水は「青いダイヤ」と呼ばれるほど貴重な資源でありながら、深刻な危機に直面しています。地球温暖化による気候変動は、異常気象を引き起こし、干ばつや洪水を頻発させています。これにより、多くの地域で水資源が減少し、水の不足が深刻化しています。また海面上昇により、沿岸部の国々では淡水資源が塩水に浸食され、飲み水の確保が難しくなっています。

さらに水がない国々では、水をめぐる競争が激化する時代が迫っています。水資源の不足は、国際的な対立や紛争の原因となる可能性が高く、世界中で水の確保が新たな課題として浮上しています。

水を通して、日本の良さや課題、そして世界の中で生きていく子供たちをどう育てるのかを、考えさせられた夏休みでした。本校の児童は新聞記事から学ぶ授業やSDGsの学習などから「世界で起こっている出来事」などにも関心をもって学んでいます。各教科で身に付けた学力を総合的に結び付けながら、「自分たちでできること」を考えて行動し、「世界の危機」を乗り越えて幸せな未来を作りたいと思います。

<学校指定の学用品について>今までの販売店が店じまいをしたため、小岩のイトーヨーカ堂での販売となりました。ご不便をおかけします。校帽と名札以外の学用品については、強制ではありませんが、上履きは体育科でも使用しますので、安全のため底に厚みがあり、すべり止めが付いているものをお勧めしています。

